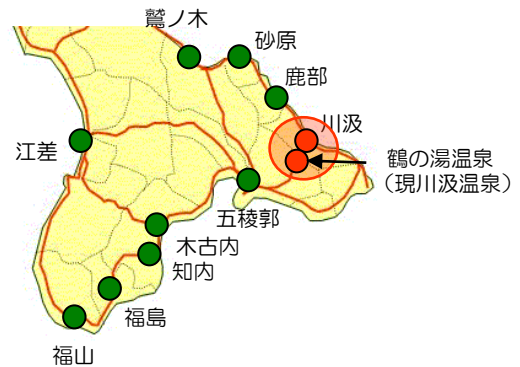
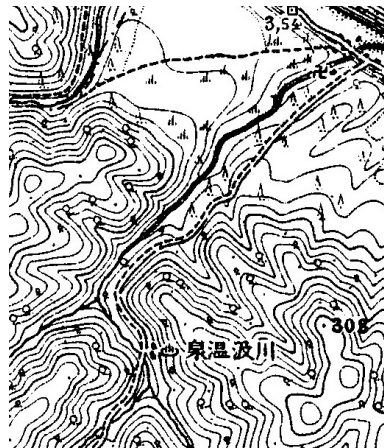


川汲市街地～鶴の湯温泉（現川汲温泉）



川汲～鶴の湯温泉（現川汲温泉）の道



川汲市街地～川汲温泉地図（大正）

川汲の集落から川汲温泉への道は3本がある。1つは藩政時代から明治の道、他の1つは大正14年に完成した大正道路、さらに昭和43年に完成した道道83号線がある。

大正道路が完成した時は、函館湯の川の藤野自動車が初めて乗用車の運行を開始した。その後函館バス（株）が運行した。

道道83号線は、国道278号線を恵山方向に進み、川汲川に掛る川汲川橋の手前を右に曲がって、緩い坂を登って行く道である。

藩政時代から明治の道は、川汲橋を渡って、右に曲って道なりに進む。少し進むと右手には龍王寺があり、左手に神社がある。

舗装道路の道は緩やかに登っているが、現在の道は大正道路と言ひ、大正 14 年に出来た道になる。

この道

は、幕末の旧道とほぼ同じ位置にあったが、大正道路が出来たので、道の面影はなくなった。大正道路に比べて曲がりくねった道だった。

舗装された道はやがてダートになる。道は人が歩かないので、木々の枝葉が伸びて歩きにくい所はあるが、それほど長い距離では無い。

やがて沢が出てくる。「深い沢」と言う名称なのだが、それほど深くはなく歩ける。沢には朽ち果てた橋がある。この橋は大正道路に付いていた閑古橋になる。橋は渡れないので、一度「深い沢」に下り再び登る。

土方隊が通った時には、ここに橋があったのだろうか。それとも沢に積もった雪の中を進んだのだろうか？

大正道路は沢を越えて、現道道 83 号線に突き当たる。そこから川汲温泉までは現在の道道 83 号線と同じ道になる。

旧道は道道 83 号線に突き当たる手前の、左手の急な土手を登った所にある。大正道路が出来る以前は、「深い沢」から滑らかに土手の上まで登っていたのだろうが、大正道路を作る際切削したので、急な土手になってしまった。

この旧道は、道道 83 号線左の 5~6m 付近の法を温泉に向って付いている。

昔の雰囲気を残す旧道をしばらく進むと、道は途中で切れてしまう。ここから先は大正道路か昭和道路（道道 83 号線）を造る際に削られてしまったそうだ。

この後の現川汲温泉までの間にも所々に旧道の跡はあるが、殆どは工事等で寸断され、旧道は残っていない。

松浦武四郎の蝦夷日誌に書かれた鶴の湯温泉（現川汲温泉）と川汲山道一本道



「河汲村温泉場之図」蝦夷日誌より＝市立図書館中

左の絵は松浦武四郎が蝦夷日誌に書いた、川汲温泉と旧道が書かれている図である。

温泉場はかなり大規模なものだった事が伺われる。

温泉の上の方に薬師堂があるのも、古文書に書かれている他の旅人の文書とも一致する。

さらに温泉場から川汲川に下る道が書かれており、対岸の山裾にも道が書かれており、この道は川汲川の左岸（絵では川の右側）にあるので、現在も僅かに残っている、旧道と同じだと判断が出来る。

この道はさらに上に登って行き、沢の中を通っている。この沢は九十九折れの道で、土方隊が川汲峠から銃撃する箱館府兵に手こずった場所だ。

この沢から右手の山の方に登れば旧川汲峠になるのだろう。そしてピークが台場山を表しているのだろう。



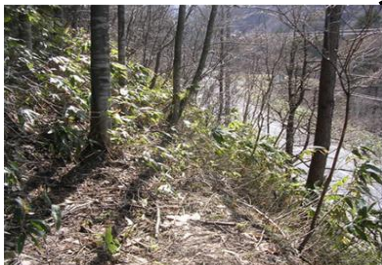
国道278号線からの旧道入口



「深い沢」からの登り



古い道標もある



旧道はここで切れる。下は道道83号線



国道278号線

川汲川橋

龍王寺

道道83号線

旧道
(大正道及びそれ以前)

閑古橋

深い沢

この辺りの旧道は
道道が出来て無くなった

鶴の湯温泉「山中旅館」
(現川汲温泉ホテル)

川汲～鶴の湯温泉「山中旅館」



道の途中には龍王寺がある



川汲温泉にある慰霊碑



閑古橋手前の荒れてしまった旧道

川汲～鶴の湯温泉（現川汲温泉）間マップ